巨樹・巨木シリーズ-14 千葉県および都内の巨樹・巨木

細田木材工業株式会社 顧 問 細 田 安 治

U氏の足で歩いた貴重な資料から千葉県と都内の巨樹・巨木をご案内する。

◇千葉県の巨樹・巨木の特徴

千葉県の県木としてのマキの木は庭の観賞用として住宅地や神社などで見かけられる。

また生垣用のビャクシン (別名カイヅカイブキ) は、比較的新しい工場団地などに緑化義務木として数 多く植栽されている。またビャクシンの巨木は地域の神社に象徴として大切にされている。さらに特筆 すべきは千葉県の県木として指定されているマキの木だ。さて本題に入る。

◇滝川のビャクシン

樹齢800年、樹周4.72m、樹高15m 館山市山本 木幡神社内 館山市指定天然記念物

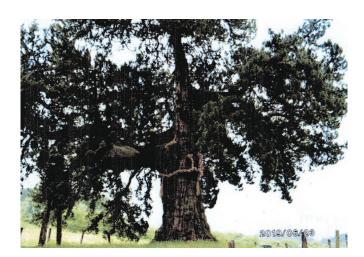
このビャクシンは木幡神社北の丘の上に立つ見ごたえのあるご神木だ。別名ビャクダン(白檀)イブキ (伊吹)とも言われている。ヒノキ科で木目が固く、かぐわしい芳香のある香木である。このビャクシンの葉は鱗状に伸び、幹は大きく伸びている。枝は渦巻のように伸び、立ち姿は円錐のように美しい。

木幡神社の歴史は古く、大化の改新 (645年) より前に大伴氏が氏神様を祀ったのが始まりと言われており、このビャクシンはご神木と伝わる (館山市教育委員会案内板より)

余談だが、新木場木材団地にも緑化義務木としてカイヅカイブキを植生した。海岸に近いため鉄がさび付く塩害にも耐えられる強い木だ。同じ目的で植えたハルニレは虫害に弱く、アメリカシロヒトリ(毛虫)がつくと丸坊主にされてしまう。この毛虫は防虫剤にも強く食欲旺盛であり、サクラの木も同様に丸坊主にされる。カイヅカイブキは、この毛虫にも強い木として重宝がられている。筆者は恥ずかしながら、カイヅカイブキの別名がビャクシンと、今回初めて知った。

しかしカイヅカイブキは生垣として植えてそのまま手入れをしなければ、幹は上に伸び、下枝が落ちて見苦しくなる。上を止めて下枝を円錐状に広げれば、緑の炎のように美しく姿の良い生垣と緑の塀となり、ビャクシンは実用と観賞用として二つの役割を果たすことになり、正に一石二鳥の役割を果たすことになる。

何事も手入れが肝心、手入れ次第でよくも悪 くもなる、特に植物は大切にしなければならな



滝川のビャクシン

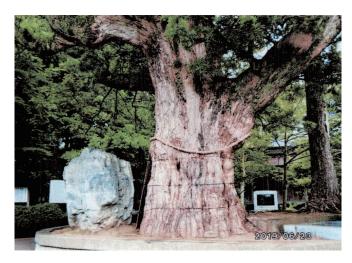
◇鶴谷八幡宮のイヌマキ

樹齢300年、樹周4.72m、樹高15m 館山市八幡 鶴谷八幡宮内

千葉県の県木に指定されているイヌマキは、 関東以西の和風の庭によくみられる観賞用植木 として優れている。

ご神木とされているイヌマキは社殿左手に聳え立つ。裏側に回ると大きくウロのようになっているが、このイヌマキはウロなどどこ吹く風と樹勢ますます旺盛である。

樹齢300年とあるが樹木周り、樹高がとびぬけていることもさることながら、しめ縄を回した



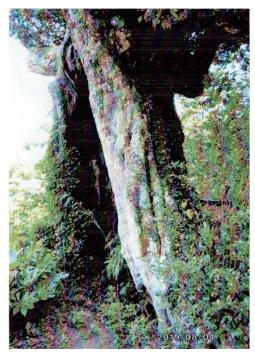
鶴谷八幡宮のイヌマキ

樹幹には、この巨樹の内部からみなぎる力が押し出され、大きなしわとこぶとになってこの巨樹の持つ すべてを語っているようだ。まさに数ある巨樹・巨木の中で、威厳も備えた横綱・・・を超えて王様で はないか、と評価した。皆様いかがでございましょうか。

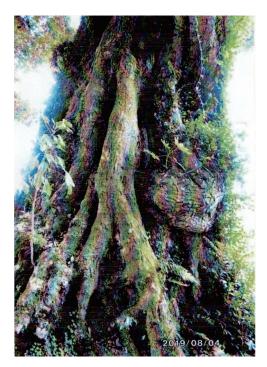
もっと言えば、我が国の巨樹・巨木といえばほとんどが広葉樹であるが、このマキは針葉樹であることも特筆すべきことである。オッと針葉樹の王様は屋久島の屋久スギたちと、王様縄文スギがある。違いを探せば屋久スギは2000年以上が条件となっていることだ。また、屋久島という気象条件に恵まれた地域で育ったことも大きな違いといえる。そもそも、屋久スギと比較するのは無理がある。ここでは、樹齢300年のイヌマキのすばらしさを讃えたい。人にたとえればこのイヌマキは樹齢300年にもかかわらず、30代~40代の働き盛りの力を持った巨木である。ぜひともお目にかかりたい。館山なら可能と思う。

◇大多喜町日枝神社の大シイ 2本のスダジイ 雄龍・雌龍

樹齢1000年、樹周7.4m、樹高17m 夷隅郡大多喜町小田代 日枝神社 大多喜町指定文化財天然記念物大多喜町の日枝神社に、樹勢旺盛にして正に天を突くばかり、まるで龍のようなシイの古木が2本あり雄龍、雌龍と呼ばれ、地域の守り神として篤い信仰を受けている。雄龍とされるシイは大きな根幹が盛り上がりながら広がり、天に昇る龍を彷彿させるものだ。大きな根幹は龍の顔のようにも見え、すさまじいほどの樹勢が感じられる。もう一本の雌龍は幹の裏側がウロ(ほこら)のようにえぐられている。火災にあった跡もあり龍の腹を思わせることから雌龍としたと思われる。厳しい天災にも負けず、火災など人災ともいうべき苦難にもたえたこのスダジイは1000年にわたり人々の生活を守ってきたのである。



大多喜町日枝神社の大シイ 雌龍



大多喜町日枝神社の大シイ 雄龍

◇上野村ノ大シイ

樹齢800年、樹周9.8m、樹高18m 勝浦市名木 寂光寺 千葉 県指定天然記念物

日蓮上人がこの地で、頭に負傷されたが、不思議にも「九死に一生を得た」ほどの、法難であった。その後、日蓮上人は房総地域の布教のためこの地で7日間の精進をされたと伝えられている。このことは日蓮宗の宗門に重要な意味を持つものとされている。この大シイの木はその当時より寂光寺境内の主木であり、いまなお、樹勢盛んで衰え知らず、県指定の文化財、天然記念物の指定も受けている名木だ。

自らどっしりとして揺るぎなき威容を誇っている。日蓮上 人がこの地で「九死に一生」を得た歴史を思い起こすほどの 「不屈不倒」、日蓮上人の霊が乗り移りこの木を守り支えてい るのではないか。

寂光寺門前には、このシイの古木のほかに、「高仙道松」と 言われていた松の木の名木があり、門前を引き締めていたが、 老衰のため枯死してしまったと記録されている。誠に残念で



上野村ノ大シイ

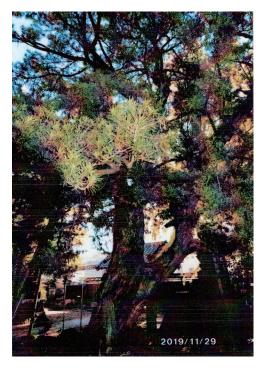
あり、「木材や」としても惜しい木をなくしたことは同様に残念至極だ。図鑑で調べてみたい。(千葉県ホームページを参照)

◇東京都内のご神木 金霊院のラカンマキ(羅漢槇)

樹齢400~450年、樹周3m、樹高10m 葛飾区東金町 金蓮 院

U氏の資料より、都内のご神木では珍しい木としてラカンマキを取り上げた。イヌマキの変種で庭木に植えられることが多い木で特別珍しくはないが、取り上げたのは、羅漢慎の漢字名が面白く、そしてこのマキが巨木であることが珍しかったからである。古くからの文献にも登場するほど有名でもある。

葛飾区教育委員会によれば、『文政2年(1829)の紀行文「十 方庵遊歴雑記」に「又傍らに緑の大樹あり。太さ三尺四寸周り もあらんか。樹の高さ凡そ二丈余り、葉の形も尋常ならず。・・・ 枝張り又天然なり云々」とある。ラカンマキの巨木は都内で はめったに見られない。金漣院の創立は永正年間(1504~ 1520)で500年前のであり末寺30余、朱印地10石ももった歴史 ある寺院である』という。



金霊院のラカンマキ

このラカンマキの樹相は主幹が中間で大きく二つに分かれ、先はさらにいくつかに分かれ、枝は四方 八方へ手を伸ばし木の周りに緑陰を作っている。紀行文にあるように、ご朱印をいただき末寺を多く従 えた、本山的寺院にふさわしい樹相を備えた名木ではないか。

◇巨樹・巨木のこぼれ話

日本経済新聞 5 月26日号に「熊野古道」の紹介記事があり、杉の木のすばらしさに引き込まれ、熊野古道へ迷い込んでしまった。脱線をご容赦いただきたい。

古くから熊野那智大社へお参りする巡礼の道、今はカラフルに色とりどりの登山者というか、ハイキング姿の登山者が曲がりくねった石段を上る熊野古道。熊野古道は心を洗われる神聖な石畳である。標高差100メートル、600メートルの大門坂参道。千日修行などで知られる熊野三山や有名な那智の滝がある。

聳え立つのは苔の緑鮮やかな袴をつけ足元を引き締め、一寸のゆるぎない緑のスギの巨木がそそり立つ。巨木の隙間から木漏れ日が降り注ぎ緑の葉がまぶしい。樹齢800年とも1000年ともいわれているスギの巨木は現代の巡礼を迎えている。

なぜこんなに有名になり海外客を引き付けるようになったのか。

日本人の観光客はバスをチャーターし、ポイント要所でガイドの説明を聞き、うなずいてそのまま帰ってしまうのがほとんどだ。恥ずかしながら筆者も数十年前にこのような観光客の一人で、那智の滝まで巡り写真を撮って帰ってきた。これでは、ただ行ってきました、だけでご当地の奥深い歴史などわかるはずがない。

ところが、現代の海外客は少人数で一人旅も多く、大自然を足で歩き歴史を自らで探り確かめ、そし

て体験と感動をお土産として持ち帰る。このような目的で来る人たちが多い。

オーバーツーリズムが社会問題となっている外国人旅行者だが、その外国人旅行者のおかげで日本の 文化が再評価されていることもまた事実である。

ドラッカー現代の経営 上巻

序論 マネジメントの本質

第一部事業のマネジメント

顧客にとって価値は何か、かつてアメリカで最も成功している企業の一つの活動を観察する

第4章 シアーズ物語

◇市場認識

- アメリカの農民市場 (今世紀の初め頃) は既存の流通チャネルから孤立した独自の市場を形成
- 一人一人の購買力は小さいが全体としてはいまだ未開拓な膨大な市場
- 農民市場の必要なものを安い価格で安定的にかつ大量に提供する新しい流通チャネルが必要
- ◇シアーズの戦略 農民にとって価値あるものはなにか→五つのイノベーション
 - 1. 農民用商品のメーカーを見つけ育てる
 - 2. 商品カタログの定期的発行→農民にとって買い物案内
 - 3. 買い手の危険負担から売り手の危険負担→委細構わず返金
 - 4. コストダウンしながら注文をさばける→発送工場
 - 5. 人間組織の育成→バイヤー・在庫管理に詳しい会計士・カタログつくりの絵かき・事務員等

◇木材問屋

- 1. 製材所の育成
- 2. 商品カタログ(建材問屋・メーカー)
- 3. 建材返品可だが木材は一覧後返品不可
- 4. 配送センター大メーカー、大問屋のみ
- 5. 大メーカー・大問屋に限定

以上の項目で「木材や」が目指すのは、人材の確保と育成ではないか。当たり前のことだが・・・・ 読者の皆様のお知恵を拝借しながら学び木材やの経営のヒントを探していく 続く